

第1節 文化財の指定と調査・保護

1 指定文化財

県内の国及び県指定等の文化財は、次のとおりである。

- 参加者 文化庁・宮城復興局・岩手復興局・福島復興局
宮城県・福島県・岩手県・仙台市
奈良文化財研究所

第8-1表 新指定等文化財

区分	名称	所在地	所有者又は代表者	指定等年月日
県指定文化財 (有形文化財彫刻)	木造菩薩立像	仙台市太白区長町	十八夜観世音堂保存会	H28.2.23

(イ) 市町村文化財担当者会議

○平成27年6月18日

○場所 東北歴史博物館

○参加者 各市町村文化財担当者

(ウ) 復興事業に伴う発掘調査にかかる連絡調整会議

○平成28年2月12日

○場所 東北歴史博物館

○参加者 各市町村文化財担当者・文化庁・宮城復興局

イ 文化財保護管理指導事業

文化財保護地区指導員を県下市町村に各1人（仙台市4人、大崎市7人、加美町3人、栗原市10人、登米市9人、気仙沼市3人、石巻市7人、南三陸町2人）委嘱し、国指定の重要文化財（建造物）、史跡、名勝、天然記念物及び主たる埋蔵文化財包蔵地についてパトロールを実施したほか、文化財保護地区指導員ほかを対象とした以下の会議及び研修会を開催した。この事業は昭和49年度から国庫補助事業として実施しているものである。

(ア) 文化財保護地区指導員会議

○平成27年4月30日

○場所 東北歴史博物館

○参加者 各市町村担当者及び文化財保護地区指導員

(イ) 市町村文化財担当者・文化財保護地区指導員研修講座

○月 日 平成27年11月12日

○会場 東北歴史博物館

○研修内容 「栗原市 入の沢遺跡の発掘調査」

講師 県文化財保護課 村上裕次氏

「山元町 合戦原遺跡の発掘調査」

講師 山元町教育委員会 山田隆博氏

「今野家住宅の震災復旧事業」

講師 東北歴史博物館 西松秀記氏

出土資料・今野家住宅修理工事の見学

○参加者 各市町村担当者、文化財保護地区指導員、文化財保護委員

ウ 基礎資料の整備

埋蔵文化財関係の基礎資料を整備し、その活用を図るため、遺跡台帳の整備充実に努めた。

エ 発掘調査

(ア) 平成27年度：埋蔵文化財発掘屈等の件数

(第8-3表参照)

○調査のための発掘屈（法92条第1項） 4件

○土木工事に伴う屈（法93条第1項） 1,405件

○土木工事に伴う通知（法94条第1項） 362件

○遺跡発見の屈（法96条第1項） 0件

○遺跡発見の通知（法97条第1項） 9件

○教育委員会の発掘調査（法99条第1項） 420件

合計 2,200件

(イ) 受託事業による調査（第8-4表参照）

(ウ) 執行委任事業による調査（第8-4表参照）

(エ) 国庫補助事業による詳細分布調査等（県教委が主体もしくは担当した調査）（第8-4表参照）

(オ) 復興交付金による分布・試掘調査（第8-4表参照）

(カ) その他の調査（第8-4表参照）

第8-2表 文化財指定等件数（平成27年度末）

区分	種別	国指定	県指定	計	
有形文化財	建造物	20(3)	36	56	
	美術	絵画	2	14	16
		彫刻	8	28	36
	工芸品	工芸品	11	22	33
		書跡・典籍	5(2)	20	25
		古文書・古碑	1	2	3
		考古資料	8	9	17
	歴史資料	3(1)	12	15	
無形文化財	工芸技術	1	2	3	
	その他		1	1	
民俗文化財	有形民俗文化財	1	4	5	
	無形民俗文化財	風俗慣習	4	9	13
		民俗芸能	3	34	37
	風俗慣習・民俗芸能		2	2	
記念物	史跡	34(1)	15	49	
	史跡・名勝	1		1	
	名勝	5(1)	2	7	
	天然記念物	28(1)	31	59	
合計		135(9)	243	378	
・選定文化財 (国選定) (県選定)					
保存技術	選定保存技術	1		1	
伝統的建造物群保存地区		1		1	
・記録作成等の措置を講ずべき文化財 (国選択) (県選択)					
無形民俗文化財	風俗慣習	5		5	
	民俗芸能	4		4	
・登録文化財 (国登録)					
有形文化財	建造物	114			
	美術工芸品	1			

注1：国指定の有形文化財(重要文化財)の中で特に価値の高いものを国宝、国指定の記念物(史跡・名勝・天然記念物)の中で特に重要なものを特別史跡・特別名勝・特別記念物に指定している。

注2：()内は、国宝・特別史跡・特別天然記念物の件数を内数で示している。

2 文化財の調査・保護

(1) 埋蔵文化財の保護及び発掘調査等

ア 保護体制の整備

県の埋蔵文化財保護体制を充実させるため、以下の会議により調整を図った。

(ア) 東日本大震災に伴う埋蔵文化財保護に関する会議

○文化庁主催

○平成27年7月14日・1月29日・3月23日（計3回）

○場所 宮城県・岩手県・福島県

第8-3表 埋蔵文化財発掘屈等件数

No.	市町村名	92条	93条	94条	96条	97条	99条	計
1	仙台市	2	719	57		3	84	865
2	白石市		16	3			14	33
3	角田市		23	3			8	34
4	七ヶ宿町							
5	蔵王町		14	3		1	7	25
6	大河原町		2	2			1	5
7	村田町		12	1			5	18
8	柴田町		9	1			2	12
9	川崎町		2					2
10	丸森町		8	4			4	16
11	塩竈市		10	10		1	8	29
12	名取市		77	13			32	122
13	亘理町		11	4			2	17
14	山元町		14	6			8	28
15	岩沼市	1	10	1			7	19
16	松島町		12	6			2	20
17	多賀城市		128	23			33	184
18	七ヶ浜町		1	4			1	6
19	利府町		21	10			11	42
20	大和町		26	3			13	42
21	大郷町		1	1				2
22	富谷町		7	1			1	9
23	大衡村		6	1			3	10
24	大崎市		77	54		1	46	178
25	加美町		8	4			8	20
26	色麻町		6	1			3	10
27	涌谷町		2	2			1	5
28	美里町		3	1				4
29	栗原市	1	41	43		2	26	113
30	登米市		17	26			10	53
31	石巻市		54	23			15	92
32	東松島市		15	15			14	44
33	女川町		5	5			2	12
34	気仙沼市		34	24			27	85
35	南三陸町		14	7		1	12	34
	宮城県						10	
	合計	4	1,405	362		9	420	2,200

第8-4表

平成27年度発掘調査遺跡一覧									
受託契約による調査									
No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構	
1	J R常磐線復旧(復興)	東日本旅客鉄道株式会社	犬塚遺跡	山元町	本発掘調査	300	4月20日～5月11日	調査担当	古代: 竪穴住居跡・製鉄炉跡, 土師器・須恵器など
2	国道4号築館バイパス建設	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所	御駒堂遺跡	栗原市	本発掘調査	460	4月20日～6月2日	調査担当	縄文時代: 陥穴, 縄文土器など 古代: 竪穴住居跡, 土師器・須恵器など 近世: 井戸跡・掘立柱建物跡など
3	三陸沿岸道路建設(復興) (本吉・気仙沼地区)	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所	小屋館城跡 石川原遺跡	気仙沼市	本発掘調査 確認調査	39 513	6月23日 12月14日～12月18日	調査担当	遺構・遺物なし 縄文時代: 竪穴住居跡, ビットなど, 縄文土器など
執行委任による調査									
No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構	
1	東北高速幹線道路建設 事業 築館登米線(復興)	宮城県 (北部土木事務所栗原地域 事務所)	大天馬遺跡・ 後沢遺跡	栗原市	本発掘調査	3,856	4月20日～5月21日・10月 5～8日	調査担当	古代: 竪穴住居跡, 土師器・須恵器
2	県営ほ場整備事業 田尻西部地区	宮城県 (北部地方振興事務所)	団子山西遺跡	大崎市	確認調査 本発掘調査	3,825	6月22日～11月20日	調査担当	古代: 道路跡・竪穴住居跡・掘立柱建物跡・井戸 跡・土坑・溝跡・河川跡など, 土師器・須恵器など
3	県営ほ場整備事業 前川地区	宮城県 (大原地方振興事務所)	槻木A遺跡	川崎町	確認調査	208	11月18日～11月25日	調査担当	古代: 遺構なし, 須恵器
4	勿来川遊水地改修事業 (復興)	宮城県 (仙台土木事務所)	市川橋遺跡	多賀城市	確認調査	8,000	1月12日～2月19日	調査担当	弥生時代: 遺物包含層, 弥生土器・石器
5	県道改良事業 志津川登米線(復興)	宮城県 (気仙沼土木事務所)	おたまや遺跡	南三陸町	本発掘調査	240	2月15日～3月4日	調査担当	古代: 竪穴住居跡・焼土遺構・ビットなど, 土師 器・須恵器など
国庫補助による調査									
No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構	
1	国道4号築館バイパス 建設	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所	入の沢遺跡	栗原市	確認調査	180	10月5日～12月14日	調査担当	古墳時代: 横穴墓 古代: 掘立柱建物跡・土壘・溝跡など, 土師器など
2	常磐自動車道坂元ス マート1C建設(復興)	東日本高速道路株式会社	法羅遺跡	山元町	確認調査	380	11月18日～11月19日	調査担当	遺構・遺物なし
その他の調査(市町村協力)									
No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構	
1	防災集団移転促進事業 (復興)	石巻市	羽黒下遺跡	石巻市	本発掘調査	8,500	4月7日～11月13日	調査協力	縄文時代: 遺物包含層・竪穴状遺構・ビットな ど, 縄文土器・石器など 中世: 掘立柱建物跡・柱列跡・溝跡・土坑など, 陶器・鉄製品・銭貨など
2	防災集団移転促進事 業・災害公営住宅整備 事業(復興)	山元町	合戦原遺跡	山元町	本発掘調査	13,055	4月7日～11月30日	調査協力	古墳時代: 古墳・横穴墓など, 土師器・須恵器・ 鉄製品・金銅製品・玉類・石製品など 古代: 竪穴住居跡・製鉄炉・木炭窯・土坑など, 土師器・須恵器・羽口・鉄滓など
3	農地海岸災害復旧事業 (復興)	宮城県 (仙台地方振興事務所)	前浜団員塚ほか	塩竈市	確認調査	1,200	5月11日～5月21日	調査協力	古代: 貝層, 土師器・須恵器・製塩土器
4	ほ場整備(復興)	宮城県 (仙台地方振興事務所)	新浜遺跡ほか	山元町	確認調査	5,275	5月11日～7月3日	調査協力	遺構・遺物なし
5	個人住宅	個人	亀岡遺跡	大衡村	確認調査	72	5月21日	調査協力	遺構・遺物なし
6	個人住宅(復興)	個人	上川名貝塚	柴田町	確認調査	37	5月25日	調査協力	遺構・遺物なし
7	防災集団移転促進事業 (復興)	気仙沼市	緑館遺跡	気仙沼市	確認調査 本発掘調査	360	6月2日～8月5日	調査協力	古代: 竪穴住居跡・溝跡, 土師器・須恵器・土製 品
8	県道改良(復興)	宮城県 (気仙沼土木事務所)	伊里前牧野館跡	南三陸町	確認調査	6	7月6日～7月8日	調査協力	遺構・遺物なし
9	防潮堤改修(復興)	宮城県 (仙台土木事務所)	朴島北貝塚	塩竈市	確認調査	234	7月6日～7月9日	調査協力	遺構・遺物なし
10	個人住宅(復興)	個人	近東遺跡	南三陸町	確認調査	147	7月10日	調査協力	遺構・遺物なし
11	作業道布設	個人	大船沢板碑群	南三陸町	確認調査	200	7月13日～7月21日	調査協力	遺構・遺物なし
12	防災集団移転促進事業 (復興)	気仙沼市	内の脇2号貝塚	気仙沼市	確認調査	320	7月21日～7月30日	調査協力	遺構・遺物なし

No.	事業名	事業主	遺跡名	所在地	調査種別	発掘面積 (㎡)	調査期間	主な発見遺構	
13	阿武隈川堤防築堤	国土交通省東北地方整備局 仙台河川国道事務所	台町遺跡	丸森町	確認調査	56	7月21日～9月17日	調査協力	古代：堅穴状遺構・土坑・ビット，土師器・須恵器
14	漁業集落防災機能強化事業（復興）	塩竈市	桂島貝塚	塩竈市	確認調査	258	8月3日～8月19日	調査協力	遺構・遺物なし
15	ほ場整備（復興）	宮城県 (気仙沼地方振興事務所)	おたまや遺跡	南三陸町	確認調査	220	8月31日～9月11日	調査協力	遺構・遺物なし
16	県道改良（復興）	宮城県 (気仙沼土木事務所)	波伝谷東遺跡	南三陸町	確認調査	3	9月14日～9月16日	調査協力	縄文時代：ビット，縄文土器
17	防潮堤改修（復興）	宮城県 (仙台塩釜港湾事務所)	平戸貝塚ほか	塩竈市	確認調査	65	9月24日～9月25日	調査協力	遺構・遺物なし
18	ほ場整備（復興）	宮城県 (仙台地方振興事務所)	内館跡跡ほか	多賀城市	確認調査	6,389	10月13日～3月22日	調査協力	古代：溝跡・小溝状遺構など，土師器・須恵器など 中世：堀跡・溝跡・土坑など，陶磁器・石製品など
19	宅地造成	大衡村	大衡城跡・寺沢西遺跡	大衡村	確認調査	39	10月20日	調査協力	遺構・遺物なし
20	宿舍建設	企業	秋の沢遺跡	南三陸町	確認調査	6	10月22日	調査協力	遺構・遺物なし
21	県道改良	宮城県 (大河原土木事務所)	入山遺跡	大河原町	確認調査	56	11月13日	調査協力	遺構・遺物なし
22	メガソーラー建設	企業	岳遺跡	丸森町	確認調査	310	11月16日～11月17日	調査協力	遺構・遺物なし
23	農業施設（復興）	南三陸町	おたまや遺跡	南三陸町	確認調査	1,400	11月30日～1月8日	調査協力	古代：堅穴住居跡・溝跡・ビット，土師器・須恵器
24	県道改良	宮城県 (大河原土木事務所)	四反田遺跡	丸森町	確認調査	48	12月1日・12月9日	調査協力	遺構・遺物なし
25	駐車場造成	企業	三代河原遺跡	丸森町	確認調査	56	12月14日	調査協力	遺構・遺物なし
26	被災市街地復興土地区画整理事業（復興）	南三陸町	城場遺跡	南三陸町	確認調査	67	1月12日～1月13日	調査協力	遺構・遺物なし
27	県道改良	宮城県 (大河原土木事務所)	入山遺跡	大河原町	確認調査	72	1月19日	調査協力	遺構・遺物なし
28	県道改良（復興）	宮城県 (気仙沼土木事務所)	おたまや遺跡	南三陸町	確認調査	95	1月21日	調査協力	古代：堅穴住居跡・焼土遺構，土師器・須恵器
29	個人住宅	個人	入間野平城館跡	柴田町	確認調査	27	2月2日	調査協力	遺構・遺物なし
30	ほ場整備（復興）	宮城県 (仙台地方振興事務所)	北泥沼遺跡ほか	山元町	確認調査	613	2月15日～2月22日	調査協力	遺構・遺物なし
31	資材置場造成	企業	萱刈場窯跡	大衡村	確認調査	344	3月22日～3月23日	調査協力	古代：堅穴住居跡・土器焼成遺構，土師器・須恵器

オ 報告書の刊行

刊行年月日	報告書名
2015 (平成27年10月)	宮城県文化財調査報告書第238集 「山王遺跡・市川橋遺跡の調査—都市計画道路 (主要地方道)『泉—塩釜線』関連調査報告書Ⅷ—」
2015 (平成27年12月)	宮城県文化財調査報告書第239集 「涌沢遺跡ほか—常磐自動車道建設関連遺跡 調査報告書Ⅱ—」
2016 (平成28年3月)	宮城県文化財調査報告書第240集 「東日本大震災復興事業関連遺跡調査報告Ⅲ」
2016 (平成28年3月)	宮城県文化財調査報告書第241集 「大天馬遺跡・後沢遺跡—みやぎ県北高速幹線道路 関連遺跡調査報告書Ⅱ—」

(2) 文化財の保護

ア 史跡名勝天然記念物に対する現状変更件数については、次表のとおりである。(第8-5表参照)

イ 銃砲刀剣類の審査と登録

登録審査会を6回開催し、美術的価値のある銃砲刀剣類の登録を行った。(第8-6表参照)

ウ 第57回北海道・東北ブロック民俗芸能大会

平成27年11月1日(日)に仙台市を会場に開催され、本県から2団体(上沼加茂流法印神楽(登米市)・大沢の田植踊(仙台市))が出演した。

第8-5表 史跡・名勝等の現状変更件数

種 別	名 称	年 度										
		17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
特 別 名 勝	松 島	88	88	139	135	198	155	235	369	262	315	318
特 別 史 跡	多賀城跡附寺跡	9	10	18	11	8	13	6	4	4	5	9
そ の 他		42	18	38	31	30	22	41	46	21	20	20
計		139	116	195	177	236	193	281	419	287	340	347

第8-6表 銃砲刀剣類の登録件数

種 類	た ち	刀	わきざし	短 刀	剣	や り	なぎなた	その他	火なわ式銃砲	火打石式銃砲	管打式銃砲	計
件 数	5	77	88	33	0	22	3	0	8	1	2	239

3 文化財保護事業に対する助成等(震災関係を除く。)

(1) 国庫補助事業

本年度国庫補助事業として実施したものは次のとおりである。

第8-7表 平成27年度国庫補助事業 (単位:千円)

事 業 名	事 業 者	総事業費	内 訳			
			国庫補助金	県補助金	市町村費	所有者負担金等
近代和風建築総合調査	宮城県	3,291	1,645	-	-	1,645
瑞巖寺本堂ほか7棟 建造物保存修理	瑞巖寺	310,000	186,000	17,775	5,000	101,225
村田町村田伝建地区 伝建地区保存修理	村田町	46,037	23,014	4,602	-	18,421
村田町村田伝建地区 伝建地区防災施設等	村田町	2,000	1,000	200	-	800
村田町村田伝建地区 地域活性化	村田町	19,421	9,710	1,942	-	7,769
木造不動明王坐像 美術工芸品防災施設	大徳寺	2,592	1,296	324	486	486
朴沢学園裁縫教育資料 史料調査	仙台市	2,062	1,031	-	-	1,031
おくのほそ道の風景地 史跡等保存管理計画	多賀城市	2,000	1,000	-	-	1,000
多賀城跡附寺跡 史跡等総合活用整備	宮城県	8,193	4,096	-	-	4,096
多賀城跡附寺跡 史跡等総合活用整備	多賀城市	14,182	7,091	-	-	7,091
仙台城跡 史跡等総合活用整備	仙台市	1,782	891	-	-	891
雷神山古墳 史跡等総合整備	名取市	8,967	4,483	896	-	3,588
大木囲貝塚 史跡等総合整備	七ヶ浜町	3,476	1,738	347	-	1,391
旧有備館および庭園 史跡等総合整備	大崎市	24,514	12,257	-	-	12,257
称名寺のシノキ 天然記念物再生	称名寺	2,268	1,134	-	567	567
市内遺跡発掘調査等	仙台市	32,397	16,198	-	-	16,198
市内遺跡発掘調査等	多賀城市	16,227	8,113	-	-	8,113
市内遺跡発掘調査等	大崎市	3,300	1,650	-	-	1,650
市内遺跡発掘調査等	東松島市	5,126	2,563	-	-	2,563
市内遺跡発掘調査等	角田市	2,027	1,000	-	-	1,000
市内遺跡発掘調査等	白石市	5,231	2,612	-	-	2,612
市内遺跡発掘調査等	名取市	3,005	1,500	-	-	1,505
市内遺跡発掘調査等	気仙沼市	712	356	-	-	356
市内遺跡発掘調査等	栗原市	3,009	1,500	-	-	1,500
町内遺跡発掘調査等	丸森町	2,993	1,496	-	-	1,496
町内遺跡発掘調査等	加美町	2,000	1,000	-	-	1,000
町内遺跡発掘調査等	松島町	6,530	3,265	-	-	3,265
市内遺跡埋蔵文化財公開活用	多賀城市	7,402	3,701	-	-	3,701
市内遺跡埋蔵文化財公開活用	仙台市	5,338	1,575	-	-	1,575
市内遺跡埋蔵文化財公開活用	東松島市	3,150	1,575	-	-	1,575
多賀城跡附寺跡指定文化財管理(国有文化財管理)	多賀城市	208	166	-	-	166

第62回日本伝統工芸展仙台展	日本伝統工芸品 仙台実行委員会	3,210	1,496	-	-	1,714
福応寺毘沙門堂奉納養蚕信仰絵馬 重要有形 民俗文化財保存活用整備	福応寺	4,000	3,200	150	225	225
選定保存技術(石盤葺)伝承	佐々木信平	1,211	1,106	-	-	105
多賀城跡附寺跡買上げ(直接買上げ)	多賀城市	200,000	160,000	8,000	-	3,200
仙台郡山官衙遺跡群買上げ(直接買上げ)	仙台市	101,992	81,593	-	-	20,399
陸奥国分寺跡群買上げ(先行取得償還)	仙台市	264,572	211,656	-	-	52,916
仙台郡山官衙遺跡群買上げ(先行取得償還)	仙台市	66,819	53,454	-	-	13,365
特別天然記念物カモシカ食害対策	宮城県	1,273	848	-	-	550
県内遺跡発掘調査等	宮城県	12,613	6,305	-	-	6,305
指定文化財管理	宮城県	4,308	2,154	2,154	-	0

(2) 特別天然記念物カモシカ保護対策事業

南奥羽山系カモシカ保護地域におけるカモシカの生息動向・
生息環境・食害発生状況などのカモシカ保護対策に関する調査
を実施した。

(3) 県費補助事業

本年度県費補助事業として実施したものは、次のとおりである。

第8-8表

平成27年度県費補助事業

(単位：千円)

補助事業名	補助金交付先	補助金額	備 考
建造物保存修理事業	刈田嶺神社 防災設備	5,940	補助率 50%
建造物保存修理事業	花山寺栗原寺不動明王像 防災設備	815	補助率 50%
史跡等保存整備事業	唐桑町下二本杉 環境整備	48	補助率 50%
無形文化財・無形民俗文 化財等保存事業	無形文化財保持者及び保持団体 新田柳心館 他 2個人	420	補助率 定額(140千円)
	無形民俗文化財保存団体 湯元田植踊保存会 他46団体	1,380	補助率 定額(30千円)

4 災害復旧事業に対する助成等(震災関係)

(1) 国庫補助事業

国庫補助事業として実施したものは次のとおりである。

第8-9表

平成27年度災害復旧補助事業

(単位：千円)

事業名	事業者	総事業費	内 訳				所有者負担金等
			国庫補助金	県補助金	震災復興 基金	市町村費	
旧有備館および庭園 史跡等総合活用整備	大崎市	20,776	14,543	-	-	-	6,233
仙台城跡 史跡等総合活用整備	仙台市	69,540	48,678	-	-	-	20,862
齋藤氏庭園 史跡等総合活用整備	石巻市	150,634	105,443	-	-	-	45,191
歌津館崎の魚竜化石産地および魚竜化石 史跡 等総合活用整備	南三陸町	184,835	129,384	-	-	-	314,035
角星酒造店舗及び酒造工場	個人	2,008	1,405	-	150	-	453

(2) 県費補助事業

県費補助事業として実施したものは、次のとおりである。

第8-10表

平成27年度災害復旧補助事業

(単位：千円)

事業名	事業者	総事業費	県補助金	震災復興基金	市町村費	所有者負担金等
華足寺客殿及び山門 保存修理	華足寺	5,732	2,866	358	1,433	1,075
愛宕尊騎馬像・六地藏菩薩立像 保存修理	正圓寺	3,217	-	402	1,608	1,207
湊神社 保存修理	湊神社	2,546	-	501	540	1,505

5 その他

(1) 宮城県地域文化遺産復興プロジェクト

東日本大震災により被災した無形の文化遺産等に対して、
活動基盤の再構築を促し、文化遺産を活かして復興に資する
とともに、その成果を多様な形で還元するため、記録作成、
普及啓発、後継者育成等の事業を実施した。

事業期間：平成27年4月1日～平成28年3月31日

実施主体：宮城県地域文化遺産復興プロジェクト実行委員会
事業額：22,241,915円(平成27年度)

事業内容

事業1：地域の文化遺産記録作成、調査研究事業

①宮城県の文化遺産総合情報発信事業

②ヘリテージマネージャー養成事業

事業3：地域の文化遺産継承事業

- ①正藍染後継者養成事業
 - ②山元町無形民俗文化財継承事業
- 事業4： 地域の文化遺産情報発信事業
- ①伝統的工芸技術記録作成事業
 - ②宮城県の地域文化財に関わる調査活用事業
 - ③ミクロな文化遺産地域文化遺産再発見事業
 - ④仙台藩大肝入吉田家文書整理・調査事業
 - ⑤地域の御正躰を中心とした調査活用事業

(2) 文化財レスキュー事業

東日本大震災により被災した文化財等（絵画、彫刻、古文書、考古資料など）を緊急に保全するとともに、貴重な文化財の廃棄・散逸を防止するため、平成23年4月に「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）」（実施主体：東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会（事務局：東京文化財研究所））が立ち上げられ、行政機関や研究機関、学会などの連携・協力の下に、各地の多数の被災文化財等を救出して応急処置を施し、博物館などで一時保管が行なわれた。その後、10月には宮城県教育委員会、東北歴史博物館などが中心となって「宮城県被災文化財等保全連絡会議」を設置し、救援委員会とも連携・協力してレスキュー活動を進め、被災文化財の保護・保全に努めてきた。

○文化財レスキュー事業実績（平成27年3月現在）

64箇所、約24,000件
 石巻文化センター収蔵資料・毛利コレクション等
 東松島市埋蔵文化財収蔵庫の資料等 数千点以上
 気仙沼市唐桑漁村センター民俗資料・生物標本等
 約400点

事業概要
 第8-11表

対象ミュージアム	事業内容	事業費
石巻文化センター	資料保存修復・再整理・仮保管	15,823,421
気仙沼市教育委員会	資料整理データベース化・収蔵環境整備	6,511,583
志津川自然環境活用センター	データベース復旧・収蔵展示復旧	2,724,195
宮城県美術館	整理・収蔵庫整備・環境整備	2,071,926
仙台市博物館	修復・再整理・収蔵環境調査	11,165,258
仙台市教育委員会	修復・再整理	3,506,181
南三陸町立歌津魚竜館・歴史民俗資料館	収蔵環境整備・展示室復旧	55,404,000
東北歴史博物館	修理・保全・保管・再配架	39,963,554
多賀城市埋蔵文化財センター	資料再配架	37,196,280
奥松島縄文村歴史資料館	修理・データベース	11,380,000
村田町歴史みらい館	収蔵庫整備・データベース	22,879,000
亘理町立郷土資料館	資料整理・修理	16,428,778
岩沼市ふるさと資料室	修理・データベース・保管施設設置	3,279,002
涌谷町立史料館	資料保全・収蔵施設設置	2,292,784
大崎市松山ふるさと歴史館	修理・展示室整備	14,382,000
歴史博物館青葉城資料展示館	修理	27,462,240

(3) 文化財ドクター派遣事業

被災した建造物の状況調査や応急措置及び復旧に向けた技術的支援等を行うため、文化庁と財団法人日本建築学会が連携・協力し、現地に調査員（文化財ドクター）を派遣するため、県では関係市町村と連絡調整を図り、この事業の下で被災建造物の復旧支援を行った。

(4) 被災ミュージアム再興事業

東日本大震災により被災した歴史博物館・美術館等が保有する、または寄託を受けた資料の修理、整理・データベース化、収蔵施設の整備や環境保全、展示公開等をおこない、博物館機能の再興を図るもの。文化庁の補助事業で、平成24年度から5ヶ年の計画で進められている。事業費の1/2が国庫補助金、残額は震災復興特別交付金でまかなわれる。本県では、文化庁の事業採択を受け、平成24年度から本事業に取り組んでいる。

事業期間 平成24年7月1日～平成28年
 事業額 272,788,000円（平成27年度）

第2節 東北歴史博物館

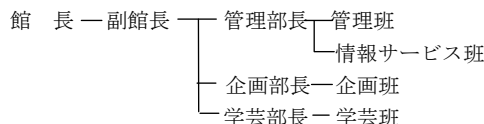
1 概要

東北歴史博物館は、宮城の地を拠点に東北全体の歴史及び文化を総合的にとらえ、その特色を世界に発信することを目的とした人文系博物館であり、誰もが気軽に学ぶことができる施設である。

企画展示、教育普及、調査研究及び歴史資料収集管理などの主要事業を積極的に行なった。

2 組織と予算

(1) 組織



(2) 予算

(決算)

項目	金額(千円)
管理経費	248,191
企画展示費	43,651
教育普及費	3,410
調査研究費	922
資料管理費	2,976
合計	299,150

3 事業

(1) 企画展示事業

ア 常設展示

総合展示室において、約3万年前の後期旧石器時代から1965(昭和40)年頃までの東北地方全体の歴史及び文化について、庶民の視点を重視しながらそれぞれの時代を特色づけるテーマを取り上げた課題展示を行っている。重要文化財を含む実物資料約1,400点の展示及び当時の様子を復元したジオラマ、イラストや地図・写真を使ったパネル、レーザーディスク等の映像装置、解説文パネルを適宜配置してわかりやすい展示を目指している。

テーマ展示室において、展示室1で「修復された被災文化財ー色麻古墳群ー」「動物の民俗」「宮城県指定有形文化財ー今野家住宅の復元と修理」「郷土玩具の世界ー手島コレクション」を、展示室2で「骨角器の世界」「杉山コレクションーアイヌ民族資料・刀装具ー」を展示した。また、展示室3では「仙台の近世絵画ー名所松島ー」をはじめ8回の展示替えを行なった。

イ 特別展示

・特別展「医は仁術」

会期：平成27年4月18日～6月21日(57日間)

関連企画：

a, 記念講演会等

(イ) 記念講演会&パネルディスカッション

期日 平成27年4月18日

演題 「「医は仁術」展にみる日本の医」

講師 国立科学博物館産業技術史資料情報センター長・監修 鈴木 一義 氏

演題 「日本の医学と東北」

講師 順天堂大学特任教授・監修 酒井 シヅ 氏

パネルディスカッション

パネラー 鈴木 一義 氏 酒井 シヅ 氏

当館本展担当 渡邊 直樹

(イ) 記念講演会

期日 平成27年5月9日

演題 「仙台藩医学校と蘭学」

講師 東北大学名誉教授 吉田 忠 氏

期日 平成27年5月31日

演題 「仙台藩の医者」

講師 芦東山記念館学芸調査員 張 基善 氏

期日 平成27年6月14日

演題 「21世紀の仁術

～いのちに触れる最先端医療～」

講師 神戸大学大学院医学研究科特務准教授

杉本 真樹 氏

b, 展示解説 全18回

c, その他 史料講読講座「近代日本の医ー特別展「医は仁術」に寄せて(全3回)」

第1回 4月26日 「第一条 慈仁」 渡邊 直樹

第2回 5月24日 「和蘭医事問答」 鎌田 彰

第3回 6月13日 「仁とはなにか」 塩田 達也

観覧者数：32,451人

・特別展「徳川将軍家と東北ー泰平の世の歴史と名宝ー」

会期：平成27年7月11日～8月23日(44日間)

関連企画：

a, 記念講演会

期日 平成27年7月11日

演題 「徳川の『平和』と東北」

講師 徳川記念財団理事長・徳川宗家18代当主 徳川 恒孝 氏

期日 平成27年7月26日

演題 「徳川家康の教育と外交」

講師 久能山東照宮宮司 落合 偉洲 氏

b, 関連イベント

(イ) 特別講座

期日 平成27年7月25日

演題 「久能山東照宮の文化財ー家康の素顔ー」

講師 久能山東照宮博物館副館長 小林 一哉 氏

(イ) 書道パフォーマンス「家康のこぼれ、政宗のこころ」

期日 平成27年7月11日・8月9日

聖ウルスラ学院英智高等学校書道部

c, 特別展示解説 全6回

観覧者数：9,706人

・特別展「日本のわざと美展

ー重要無形文化財とそれを支える人々ー

会期：平成27年9月12日～10月18日(33日間)

関連企画：

a, 記念講演会

期日 平成27年10月17日

演題 「漆芸に関する技術と道具」

講師 重要無形文化財「蒔絵」保持者 室瀬 和美 氏

b, 制作実演

期日 I 平成27年9月21日・22日

II 平成27年9月26日・27日

- 講師 I 伊勢型紙技術保存会
(重要無形文化財「伊勢型紙」保持団体)
II 柿右衛門製陶技術保存会
(重要無形文化財「柿右衛門(濁手)」保持団体)

c, ワークショップ「伊勢型紙でミニ色紙をつくろう」
期日 平成27年9月21日・22日
講師 伊勢型紙技術保存会
(重要無形文化財「伊勢型紙」保持団体)

d, ギャラリートーク 全10回
観覧者数: 6,246人

ウ 企画展示

- 「ヒマラヤへの憧れ
ー東北人の登山記録から防災アウトドアへー」
会期 平成27年12月15日～3月21日(79日間)
- 「秩父宮記念スポーツ博物館巡回展ー2020年東京オリンピック・パラリンピックがやってくる」
会期 平成28年1月23日～3月13日(44日間)
関連企画:
a, 記念講演会
期日 平成28年2月11日
演題 「私のフェンシング人生」
講師 宮城県気仙沼向洋高等学校長 千田 健一 氏
期日 平成28年3月5日
演題 「氷上のF1・ボブスレーで世界へ! スポーツ・オリンピックの価値」
講師 仙台大学教授 鈴木 省三 氏

(2) 教育普及事業

ア こども歴史館の運営

利用者数 24,413人(小・中学校・高校の利用数 延べ229校)
体験企画(解説員主催):
「お正月遊び2016 ～お正月遊び♪みんなで楽しくうつきうき♪～」
「これで君もおもちや職人だ」
「舞え! ふわふわ! ずぼんぼ!」

- イ 図書情報室の運営 利用者数 4,021人
ウ 今野家住宅の運営 利用者数 5,061人
エ 講座等の行事

行事名	回数	参加数(人)	備考
博物館講座	33	2,309	館長講座, 古文書, 史料講読, 民俗芸能, 体験考古学, れきはく講座等
体験教室	8	134	トンボ玉, ミニ屏風, お香体験等
多賀城跡巡り	14	151	120回(5月～10月), 番外2回
体験イベント	3	5,599	春・秋・冬の年3回開催
民話を聞く会	6	168	多賀城民話の会, 利府民話の会, 秋保語りの会
民話を語ろう	6	533	
民話を学ぼう	6	296	博物館民話授業・出前民話授業
地域の核となる美術館・歴史博物館活動支援事業	5	100	「参加型展示構築事業」

オ 広報と刊行物

『東北歴史博物館 平成26年度年報』

『東北歴史博物館研究紀要17』
『展示図録 医は仁術』
『展示図録 徳川将軍家と東北』
『展示図録 日本のわざと美展』
『催事カレンダー(4月～7月, 8月～11月, 12月～3月)』

(3) 調査研究事業

東北地方の歴史・文化に関連する考古資料・民俗資料・文書資料・美術工芸資料及び建造物資料について調査研究を行い, その成果を研究紀要・展示解説書等の刊行物を通じて公表した。

ア 考古資料の調査研究

楠本政助コレクションの土製品, 石器・石製品について整理作業を進め, その成果を当館研究紀要に公表した(石巻市南境貝塚, 東松島市里浜貝塚等出土の土偶・装身具, 定形石器・礫石器ほか)。

佐藤博昭氏寄贈の林謙作コレクション, 故中橋彰吾氏から寄託を受けた蔵王町宮明神裏遺跡の薄手無文土器について, 調査研究を進め, 当館研究紀要に発表した。

北村千代治氏や榎戸由樹氏が収集した資料の寄贈を受け, 基礎整理, 登録・収蔵を行った。

イ 民俗資料の調査研究

宮城県及び東北地方の民俗資料を調査し, 展示に活用できるように, 独立行政法人産業総合研究所東北センターより移管された旧工芸指導所関係資料について整理作業を行った。

東日本大震災後の民俗調査事業として, 「三陸沿岸の漁村と漁業習俗」調査の調査地を中心に, 石巻市雄勝町, 女川町竹浦, 南三陸町戸倉波谷谷, 陸前高田市小友町を対象に調査を実施した。

民俗誌作成事業(東北学院大学との連携)として引き続き大崎市三本木新沼地区の調査を実施した。成果を中間報告書として刊行した。

ウ 歴史資料の調査研究

館蔵資料の資料保存と公開促進の目的で, 「保呂羽村役場文書」のマイクロフィルム化を行った。また, 一部についてデータベース化を行い, ホームページ上で公開した。

宮城県の地域文化財に関わる調査・活用事業として, 仙台塩竈地区のうち, 満勝寺(仙台市)・覚範寺(仙台市)・東園寺(塩竈市)・願成寺(塩竈市)などの調査を行い, 資料の写真撮影等を実施した。

仙台藩大肝煎吉田家文書に関わる整理・調査事業として, 平成26年度から文化庁の支援を得て開始した。近世・近代の整理状況に関する情報を慎重に記録しながら, 整理・調査作業を行い, 仙台藩研究や地域研究に資することを目的としている。

エ 美術工芸資料の調査研究

館蔵近世絵画のうち文人画, 工芸資料のうち杉山コレクション刀装具について調査研究を進め, その成果の一部をテーマ展示で公開した。

仏教文化及び美術に関する調査研究として, 宮城県内, 近隣県内の信仰拠点に伝わる資料の調査及びデータの整備を進めた。

東北の近世絵画に関する調査研究として, 城下町を描いた絵図及び名所絵および景観図等について宮城県内を中心とした東北地方に伝わる資料の調査を実施し, データの整理を進めた。その成果の一部を今年度のテーマ展示及び特別展示, 講座で公開した。

オ 建造物資料の調査研究

古建築の活用に関する調査研究及び管理運営調査として, 歴史的建造物の県内各所の被害状況とその修復の方法及び一

般開放等に向けた取組や管理運営の現状と課題について、大崎市の旧有備館および庭園をはじめ南三陸町・登米市などの現地調査を行った。

宮城県近代和風建築総合調査として、宮城県教育庁文化財保護課より依頼を受け、標記調査事業に調査員として平成26年度から参加している。今年度は主要遺構について、実測・写真撮影など詳細調査を実施した。4件の詳細調査を行い、調査成果のまとめとして報告書が刊行された。なお志波彦神社の建築については、第6回れきさく講座において調査研究成果を発表した。

カ 保存科学の調査研究

仮設収蔵施設における環境調査として、被災資料の一時保管施設として使用されている旧学校やプレハブなど文化財収蔵施設以外の施設における保存環境の安定化の方策を検討した。また、津波の被害を受けた資料からの発生物質に関する調査として、水損被災紙資料から発せられる異臭について、資料への影響、原因、対策等についても検討している。

線刻壁画の保存方法調査として、宮城県山元町合戦原遺跡で発見された線刻壁画の強化方法を検討した。

キ 歴史的災害展示研究

東日本大震災を経験した宮城県立の博物館として、災害の展示についての県民をはじめとする来館者からのニーズが高まることが予想されることから平成26年度から開始し、今年度は5回の研究会を開催した(⑤「平成26年度研究会のまとめと今後の方向性」⑥「874(貞観16)年の開聞岳噴火の罹災と復旧」。⑦「多賀城高校災害科学科」, ⑧「津波堆積物研究の現状と課題」, ⑨「国際研究ワークショップ「地域文化の再発見とその活用の方向性」)。

(4) 資料管理事業

歴史資料・文書資料・民俗資料等を収集し保存及び管理を行い、展示・閲覧・貸出・調査研究などの活用に資する。

ア 実物資料

考古・民俗・文書・美術工芸・建築・歴史の各資料分野にわたって、約10万件を超える資料を収蔵している。

資料の館外貸出は36件752点であった。寄贈資料は、歴史資料(宮城電気鐵道記念銀杯、多賀城被拓本等)、民俗資料(漁撈具)、考古資料(霞目出土資料等)、美術工芸資料(小池曲江筆絵画資料等)等253点であった。

イ 写真資料

収蔵実物資料を撮影したもの等を中心とした写真資料について、フィルムやプリントの形態で約7万件を収蔵している。今年度の写真資料等の貸出及び再掲載申込は、82件312点あった。

ウ 図書資料

当館が所蔵している図書資料の総数は約11万冊で、そのうち約8,000冊を図書情報室で開架し、来館者が自由に閲覧できるようにしている。また、収蔵図書資料の目録は、当館ホームページで公開している。

エ 保存処理

県内の遺跡から出土した脆弱な資料について、「埋蔵文化財出土遺物の保存処理」として国庫補助を受け、今年度は、北小松遺跡、熊の作遺跡等出土の木戸、建築部材、漆製品など木製品100点。山元町涌沢遺跡等出土の煙管、鉄釘、銭貨など金属製品70点について保存処理を行った。

オ 保存環境管理・調査

資料の保存状況及び収蔵庫・展示室の保存環境に関する調査を行い、資料の保全に努めた。また、収蔵庫内の木質から発生する酸・アルカリなどの成分が資料に与える影響について継続的に調査している。このほか、歴史資料の虫やカビの

被害対策として実態を調査し、個別燻蒸消毒を行った。

また、県内外の諸機関から文化財の保存環境についての問い合わせに対応した。

(5) 震災対応活動

ア 被災文化財の救援活動

当館は、2011年度から継続して石巻文化センターの毛利コレクションや文書資料、民俗資料などを中心に数万点を一時保管している。また、「宮城県被災文化財等保全連絡会議」の運営、被災資料の救出、県内一時保管施設の環境調査、被災館にかわっての資料修理、修理支援など様々な活動を実施した。

① 被災資料の保管・収蔵

一時保管資料については、その多くを別館の浮島収蔵庫にて保管しているが、保存科学担当職員が定期的に巡回して環境管理を行い、さらに6月から10月にかけては、除湿器を稼働し、温湿度のチェックを行った。

また、被災時以降、破損や雨漏りの進行等で保存環境が悪化していた浮島収蔵庫について環境整備を行った。これにより、一時保管の長期化が見込まれる旧石巻文化センター被災資料等を、これまでと比較してより安全に保管できる環境が整備された。

② 被災資料の保全処置

県内被災資料について、劣化の進行抑制のため、脱塩、くん蒸、クリーニングなどの保全処置を行った(多賀城市寄託紙資料、石巻市寿福寺資料等、石巻文科センター被災資料)。

③ 被災資料状態調査・方針協議

被災資料・施設について状態調査を行い、今後の方針策定に協力した(石巻市観音寺大般若経巡行行事資料、大崎千手観音座像保存施設整備、多賀城市水損文書資料等)。

④ 環境調査・整備

県内の被災機関の仮収蔵施設について、現地で収蔵環境等の調査を行った(南三陸町収蔵施設、石巻市仮収蔵庫、榴ヶ岡収蔵庫、涌谷町仮設収蔵庫、村田町仮収蔵庫、亘理町収蔵施設等)。

⑤ 被災資料の返却等

奈良文化財研究所で真空凍結乾燥処理し、東北歴史博物館で一時保管していた東北大学図書館資料1箱を東北大学災害科学国際研究所に返却した。

⑥ 情報公開

ホームページにより当館および後述する宮城県被災文化財等保全連絡会議の活動について公開した。また、文化財修復学会公開シンポジウム「文化財を伝える-東日本大震災で被災した文化財を考える」にて、連絡会議等が実施した文化財レスキュー活動や保全活動について報告を行った。

イ 宮城県被災文化財等保全連絡会議の運営・活動

宮城県被災文化財等保全連絡会議(以下 連絡会議)は、行政や組織の枠組みを超え、文化財レスキュー事業に関係する機関が連携、協働し、被災文化財等の保全管理等を目的として平成23年度10月21日に組織された。連絡会議で当館は代表幹事兼事務局を務めており、調整役として、他館との連携を図りながら、幹事会・全体会の開催、資料保全処置、修理支援、環境調査・整備、研修会開催(被災紙資料の応急処置、文化財保存環境整備)、情報公開等の諸活動にあたった。

ウ 宮城県復興支援調査への協力

宮城県教育委員会文化財保護課が行う東日本大震災に伴う復興支援調査に対して一年間を通し職員が協力にあたった(桂島貝塚、寒風沢元屋敷貝塚、平戸貝塚、平戸B貝塚、平戸C貝塚、前浜団貝塚隣接地、朴島北貝塚、内館館跡、新田遺跡、大天馬遺跡、後沢遺跡、おたまや遺跡、波伝谷東

遺跡，山王遺跡，八幡沖遺跡，市川橋遺跡，杉の入貝塚，波路上東館跡，波路上西館跡等）。

(参考資料) 第8-12表

平成27年度東北歴史博物館入館者数

月区分	開館日数	入館者数(人)
4月	26	8,847
5月	28	20,379
6月	25	26,936
7月	27	11,047
8月	26	10,144
9月	26	9,517
10月	27	14,313
11月	25	5,821
12月	16	2,232
1月	24	7,182
2月	24	11,209
3月	27	6,954
計	301	134,581

第3節 宮城県多賀城跡調査研究所

多賀城跡は奈良・平安時代に陸奥国の国府が置かれ、奈良時代には鎮守府も併置された役所の跡である。規模は約900m四方で、多賀城市市川のほぼ全域と浮島の一部に及ぶ。また、南東約1.2kmの多賀城市高崎には付属寺院の多賀城廃寺跡がある。これらは大正11年に史跡に指定され、さらに昭和41年には特別史跡に昇格指定された。昭和30年代後半からの急激な諸開発の波は多賀城跡の周辺にも及び、平城宮跡や大宰府跡と並んで国の三大史跡とされる重要な文化遺産である多賀城跡も破壊されてしまう恐れが生じてきた。そこで、宮城県教育委員会は昭和44年4月に宮城県多賀城跡調査研究所を設置し、多賀城跡の解明と保存を目的とする発掘調査、およびその成果に基づく環境整備を計画的に実施することにした。

1 事業内容と目的

当研究所の事業内容と目的は以下のとおりである。

(2) 多賀城跡発掘調査事業

特別史跡多賀城跡附寺跡の発掘調査を実施し、古代の多賀城の実態を解明し、あわせて環境整備のための資料を得る。

(3) 多賀城跡環境整備事業

発掘調査の成果をもとに多賀城跡附寺跡の遺構について、保存措置を講じるじるとともに、復元表示などの環境整備を行い、歴史公園として一般に公開する。

(4) 多賀城関連遺跡発掘調査事業

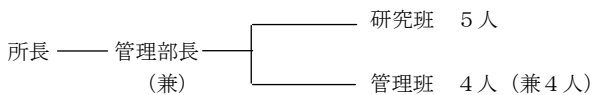
古代の多賀城に関連する県内の遺跡の発掘調査を実施して、多賀城を中心に展開された東北の古代史を多角的に解明する。

(5) 遺構調査研究事業

古代城柵官衙遺跡の資料を全国規模で収集し調査研究する。

2 組織・予算

(1) 組織



なお、当研究所では第8-13表の学識経験者からなる多賀城跡調査研究委員会を組織し、その指導・助言を得ながら各事業の推進を図っている。

第8-13表 多賀城跡調査研究委員会委員名簿

(2) 予算

ア 多賀城跡発掘調査事業費	9,424千円
イ 多賀城跡環境整備事業費	8,203千円

氏名	職	専門分野
委員長 佐藤 信	東京大学大学院教授	古代史学
副委員長 飯淵 康一	宮城学院女子大学特任教授	建築史学
委員 阿子島 香	東北大学大学院教授	考古学
〃 鈴木 三男	東北大学大学院名誉教授	植物学
〃 小野 健吉	奈良文化財研究所副所長	庭園史学
〃 松村 恵司	奈良文化財研究所長	考古学
〃 櫻井 一弥	東北学院大学准教授	建築 デザイン学
〃 栗野 隆	東京農業大学助教授	造園学
〃 古瀬奈津子	お茶の水女子大学大学院教授	古代史学
〃 熊谷 公男	東北学院大学教授	古代史学

ウ 多賀城関連遺跡発掘調査事業費 (以上、50%国庫補助事業)	0千円
エ 遺構調査研究費	116千円
オ 発掘資料デジタル化事業	1,075千円
カ 出土遺物修復事業	2,686千円
キ 出土遺物資料集成事業	1,075千円
ク 管理費	286千円

3 平成27年度事業の概要

(1) 多賀城跡発掘調査事業

平成27年度は多賀城跡発掘調査第10次5カ年計画の2年次目にあたり、立石地区で第88次調査、城前地区で第89次調査を行った。両地区を合わせて調査面積は約670㎡、調査期間は平成27年5月18

日～平成28年1月14日である。

第88次調査は、多賀城市が計画している外郭南辺東地区の環境整備に備えて、南側の外郭南辺東半部の湿地部分を調査し、幅約16m、高さ約2mの基礎盛土の上に造られた築地跡と櫓跡を発見した。ともに奈良時代後半の第Ⅱ期に造られており、その後3回の補修や建替えがあることが判明した。また、最初の櫓は宝龜11年(780)の伊治公告麻呂の乱の際の火災で焼失したこと、3時期目以降の櫓は礎石式の構造を持つことが捉えられた。古代の礎石式の櫓跡が見つかったのは東北地方では初めてである。

第89次調査は、政庁南大路と城前地区官衙北西部を調査し、南大路では従来通り2時期の変遷を確認した。城前地区官衙では官衙西辺の堀跡のほか、3棟の建物跡を検出し、官衙の全体像がいつそう明らかになった。また、官衙北西隅から鎮守府の符を納めた文書函をはじめとする木簡が8点出土し、城前地区官衙の性格をみるうえで重要な資料が得られた。鎮守府関係の木簡は初めての発見であり、多賀城における鎮守府の実在が確かめられた。

(2) 多賀城跡環境整備事業

平成27年度は政庁南面地区の総合的な整備を目的とした第10次5カ年計画の初年度にあたり、政庁南門跡から南に伸びる政庁南大路の

復元舗装工、政庁南面の総合解説広場のベンチ及び石敷の補修を実施した。また、通常の事業とは別に地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金により、過去に設置した説明板を対象に、これまでの日本語、英語による説明文に中国語(簡体字・繁体字)と韓国語を加えるサイン多元化事業を行った。

(3) 多賀城関連遺跡発掘調査事業

東日本大震災による県内の復旧事業を優先するため、当面は事業を休止している。

(4) 遺構調査研究事業

本事業は、多賀城跡及び関連遺跡の発掘調査で検出した諸遺構の保存と活用を目的として、他の遺跡の例と比較検討をしながら基礎的研究を行うものである。平成 27 年度は第 42 回古代城柵官衙遺跡検討会において、各地の城柵官衙遺跡の調査データを収集・検討したほか、栗原市伊治城跡の踏査を実施し、築地跡の現況などを調査した。

(5) 特別史跡多賀城跡附寺跡整備基本計画の作成

本計画は、平成 23 年 7 月に多賀城市教育委員会が策定した特別史跡多賀城跡附寺跡第 3 次保存管理計画に示された保存管理の基本方針を踏まえ、特別史跡多賀城跡附寺跡を東北地方の古代史上の貴重な歴史遺産として、また県民憩いの場として整備するために、整備の目標と基本方針、実施計画を定めるものである。その作成は東日本大震災により中断していたが、平成 25 年度から再開し、同年度の多賀城跡調査研究委員会による方向付けを経て、昨年度に計画(案)を作成した。その内容については、文化庁記念物課から指導を得たのちに、同年 10 月の調査研究委員会に提出し、大筋で了承を得た。

平成 27 年度は、委員会で示された指導・意見を反映させつつ修正を加え、多賀城市の関連部局との調整も綿密に行った。修正案は 10 月の調査研究委員会に提出し、承認を得たが、合わせてパンフレットとなる概要版も用意すべきとの指導があり、別に作成した。この前後には再度文化庁記念物課から指導を得ており、また、12 月から 1 月にはパブリック・コメントの募集を行い、6 件の意見を得た。そのうえで平成 28 年 2 月に策定した。

(6) 発掘資料デジタル化事業

多賀城跡調査研究所が実施してきた多賀城跡及び関連遺跡の発掘調査で作成した図面類を、緊急雇用創出事業を利用してデジタル化する作業を行った。

(7) 出土遺物修復事業

東日本大震災で被災した収蔵庫内の出土遺物について緊急雇用創出事業を利用して修復作業を実施した。

(8) 出土遺物資料集成事業

多賀城跡と関連遺跡の発掘調査で出土した遺物には様々なものがあるが、それらを種類ごとに集成・整理する作業を緊急雇用創出事業の一環として行った。

(9) 出特別史跡多賀城跡附寺跡の現状変更申請への対応

当研究所では、特別史跡内の遺構と歴史的景観の保護に努めているが、やむなく特別史跡内の現状を変更するにあたっては、申請者及び関係機関と遺跡保護のために慎重な協議を行い、遺跡に影響がない範囲で最小限の現状変更に伴う調査を行っている。

平成 27 年度の現状変更申請は用排水管及び下水道管の敷設工事が 4 件、擁壁設置工事、電柱建替工事、社屋改修工事が各 1 件で、いずれも史跡の環境整備、史跡内における生活環境上の必要性からやむをえないものである。このうち、擁壁設置工事は掘削範囲がやや広いため確認調査を実施することとしたが、他は史跡への影響が軽微と判断されたことから工事立ち合いによる対応とした。また、擁壁設置工事と電柱建替工事については、事業者の都合により本年度の工事着手が難しいため、対応は次年度とした。

(10) その他

ア 震災復旧事業に伴う発掘調査の支援

県内各地域の早期復興を目指して災害復旧事業に伴う発掘調査の支援に職員 1 名を常時派遣した。

イ 現地説明会の開催

発掘調査の成果を一般の方々に公開するために、下記の現地説明会と報道発表を行った。

多賀城跡第 88 次調査現地説明会 平成 27 年 11 月 7 日
吉野 武・廣谷和也

多賀城跡第 89 次調査出土木簡について 平成 28 年 2 月 4 日
吉野 武

ウ 各委員会などへの協力

山田晃弘 多賀城市文化財保護委員会委員
史跡伊治城跡調査整備指導委員会委員
亘理町三十三間堂官衙遺跡調査検討委員会委員
角田市角田郡山遺跡発掘調査指導委員会委員
第 42 回古代城柵官衙遺跡検討会世話人代表
秋田県弘田柵跡保存管理計画策定指導委員
秋田市秋田城跡環境整備指導委員会委員
盛岡市志波城跡史跡整備委員会委員

名勝おくのほそ道風景地保存活用計画策定委員会議

山田晃弘・吉野 武・三好秀樹・白崎恵介

多賀城南門等復元整備検討委員会議

吉野 武 国立歴史民俗博物館共同研究員

白崎恵介 石巻市近代建築保存整備調査研究専門委員会委員

釜石市橋野高炉跡史跡整備検討委員会委員

宮城県近代和風建築総合調査調査員

宮城県名勝に関する特定の調査研究調査員

エ 講演会・研究会への協力・執筆など

白崎恵介「石州流清水派の作庭と伝わる庭園に関する調査研究報告」第12回文化財庭園フォーラム

気仙沼市中央公民館 平成27年6月28日

三好秀樹「多賀城跡第87次調査の概要」

平成26年度多賀城市遺跡調査報告会

多賀城市文化センター 平成27年7月25日

白崎恵介「文化財建造物の見方と保護策について」

東北歴史博物館友の会歴史探訪 平成27年9月27日

三好秀樹「多賀城跡と貞観地震」

多賀城市第26回企画展トークイベント

多賀城市市民活動サポートセンター

平成27年10月10日

廣谷和也「多賀城跡第88次調査」

平成27年度宮城県遺跡調査成果発表会

東北歴史博物館 平成27年12月12日

廣谷和也「多賀城跡第88次調査」

第42回古代城柵官衙遺跡検討会成果報告

奥州市文化会館 平成28年2月13日

吉野 武「多賀城跡第89次調査の概要」

第42回古代城柵官衙遺跡検討会資料報告

奥州市文化会館 平成28年2月13日

吉野 武「多賀城の構造と変遷」

第42回古代城柵官衙遺跡検討会特集報告

奥州市文化会館 平成28年2月13日

白崎恵介「雫石家住宅」ほか（分担執筆）

『宮城県近代和風建築総合調査報告書』

平成27年9月27日

オ 連携大学院

山田晃弘（客員教授）

文化財科学研究演習Ⅰ「多賀城跡の研究の現状と整備」

山田晃弘（客員教授）・吉野 武（客員准教授）

文化財科学研究実習Ⅰ「古代遺跡調査の方法と実践」

カ 研究成果刊行物

『宮城県多賀城跡調査研究所年報2015 多賀城跡』

平成28年3月25日